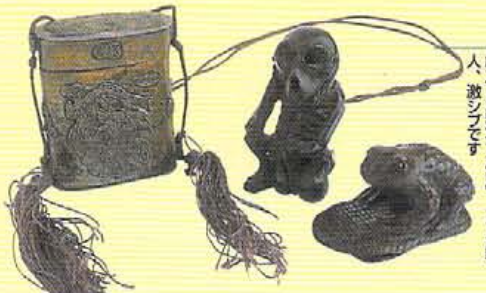
この人のセンスに注目!

取材・文／井口啓子　写真／武藤育子

FRUIT OF THE LOOM の3Pランニングは「単なるオヤジシャツだけど着心地がムチャクチャ良くて」と、浮気せずこれ一筋を愛用。夏はこれに革パン&ジャンが彼の定番



妙な味を醸し出すこのオブジェ、根付けといって帯から印籠をぶら下げる為のもの。「日本の骨董品も高くて買えないけど好きで、細工とか精巧で凄い。」さすが職人、激シブです

高3で戦闘服タイプのA2に袖を通して以来、革モノは山下さんの永遠不滅のマイ定番アイテム。「中でも馬革が好きで。光沢があって厚みがある、そんなハードな質感がいい」

ケースがロレックス、中身はチュードルというレアな腕時計は19歳の時に「バイト代を貯めて気合い入れて」購入したもの。以来、これ一本のみを愛用。使い込み具合がいい

弾丸型の卓上ライターは天神さんでゲット。真鍮とアルミのコンビで、素気なくも有機的なフォルムとズッシリした重みが何とも言えず味がある。ただ今マイルームで活躍

店のイメージキャラ？でもあるドクロは「小学校の時からドクロの木彫りとか作ってたぐらい好き（笑）」で今でもドクロと見れば即買い。このパンチングスカルは古着屋時代の買い付けで入手

PROFILE

山下浩平さん（28歳）

ハンドメイドシルバー「ラブクラフト」のデザイナー兼職人の山下さん。古着屋の店員から肉屋の配達まで数々の職を経て、ちょうど1年前に友人と2人でブランドを立ち上げると共にショップをオープン。生まれも育ちも四条富小路、カッコはハードですが実は超ジェントルな京男なり。

携帯もハードボイルド！「アメリカ映画でトランシーバーみたいなゴッツイのを観てカッコイイなあと」。これより前でも、後のモデルでもダメというモトローラ社の「HP-10M」タイプ

ブラザー社の古いミシンは道で拾ったもの。今は店内のディスプレイに使用している（革商品の作業用に使うミシンはもっと大きい）。「文字装飾がレトロでカワイイんですよ」

革、ドクロ、シルバー。ハードボイルドな職人気質世界

Tシャツに革ジャン&パンツそしてシルバー…。そんなある種の美学すらもつ永遠の定番がゆえに、ともすればクサくもなりかねない「超着る人を選ぶ」スタイルを、まるで身体の一部のようにしっくりと着こなす山下さん。古着屋時代の10代から現在まで好きなものは殆ど変わってないというから、28歳にして年季が違うというか。「いっつも同じ格好で恥ずかしいぐらいで（笑）」なんて言葉も、地に足のついた人柄が偲ばれて感動的ですらあります。「ただアメリカっぽいものはやっぱり好きで。まず古着から入ってバイクにハマって…。惚れ込んだらとことんみたいなのが強いんですよ。だから別に他に気も行かない。ドクロなんか小学校からずっと、単に世界が狭いっていう（笑）」。世間の流行もどこ吹く風。ハードボイルドなモノへの愛情で「オレワールド」を確立されている山下さん。「無骨で融通が効かないんだけど職人気質が感じられるものが好き」という彼のセンスは自らのブランド、ラブクラフトにもしっかり息づいているよう。

寺町通りに面したビルの一室にある「ラブクラフト」のショップ。制作は近所のアトリエで、山下さんは相棒の家原さんと交代で店にも立つ。いわゆるクロムハーツやダチュラの流れにあるこのシルバーは、全行程をひとつずつハンドメイドで行うため、ハードな中にも柔らかさを感じさせる有機的フォルムが特徴。女のコにも意外にハマるのだ。木の壁にポツンと灯った照明、ショーケースが置かれただけのソリッドな店内も自分達で手作り。控え目ながらも山下さん達の美学が。

ここに行けば
この人に
逢える!!

ラブ・クラフト

京都市中京区寺町通六角下ル
武蔵町249 ふじ会館2F
☎075・255・3856
12:00〜20:00／月休
（祝日の場合営業）